3 幼小中高の学びをつなぐ保育・授業づくりの推進

(1) めざす授業像

子どもたちが自ら問いを立て、答えを探す楽しさを味わう経験の積み重ねを通して、自分のよさや可能性を感じるとともに、学びへの意欲や粘り強さ、探究心をのばす保育・授業

(2) 推進項目

① 子どもたちが、「大切にしたい学びの過程」を通して自ら学びを深めていこうとする力を育てる授業づくり

〇子どもたちの「問い」を起点とする学び

「問い」は、子どもたちを問いの対象に向かわせ、思考させ、感情を動かし、他者との話し合いを触発する。

〇「問い」が生じる時

「問い」は、現実の状況を、他と比較することで、「ずれ」「隔たり」「曖昧さ」などが自覚されたときに生じる。

・他者との比較：友達の思いや考え、地域の人々の思いや考え、専門家の知見 等

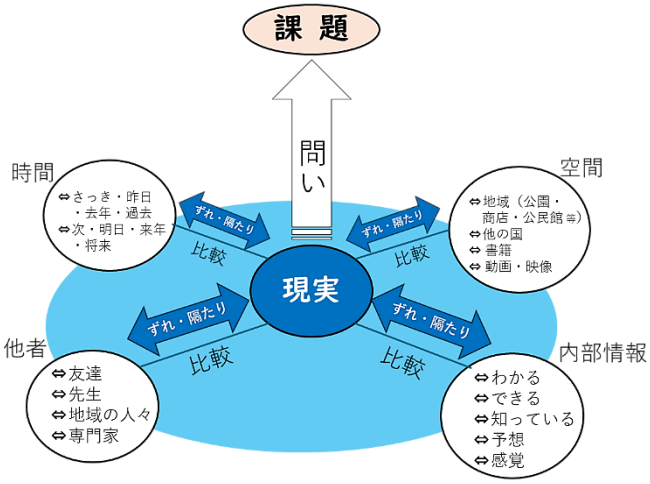
・内部情報との比較：わかること、できること、知っていること、予想、感覚 等

・時間との比較：さっき、昨日、去年、過去 次、明日、来年、将来 等

・空間との比較：地域、他の国、書籍、動画・映像 等

全ての教科で大切にしたい学びの過程

① 「問い」をもつ
② 課題の設定
③ 課題の追究
④ まとめ・表現
⑤ 取組の振り返り・価値づけ



〇「全ての教科で大切にしたい学びの過程」の実施に向けて

・「ずれ」「隔たり」「曖昧さ」を引き出す比較対象 （時間、空間、立場、内部情報 等）の設定。

・子どもたちの問いを顕在化するための、教材、環境構成、状況設定、発問等の工夫。

・「『学びの過程』を学ぶ単元」と、「獲得した『学びの過程』を活用する単元」を意識し、重点化して実践。

・「学びの過程」に活用可能な知識・技能の保障。

・リフレクション（内省）の場の設定。

② それぞれの学校種間での学びの連続性・発展性をふまえ、学びの積み重ねを意識した授業づくり

幼小中高の学びの積み重ねとは、「全ての教科で大切にしたい学びの過程」を、発達段階に応じて実施し、螺旋状に発展させていく過程である。

18歳の自立した学びに向け、自校種の指導のみに埋没することなく、前後のステージでの経験がどのように現在の学びに寄与し、次のステップへとつながるのかを、授業公開や校種間の話し合いを通じて相互に理解することが肝要である。